

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	4	学 校 名	伊豆伊東高等学校（全日制）	校 長 名	池田 将章
------	---	-------	---------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上	秋実施の到達度テストの再実施で学習到達度が上昇した生徒95%以上【1、2年生共】	達成できなかった	C	全体では、国語55.0%、数学68.6%、英語56.7%の生徒が上昇した。効果の薄かった教科目としては、特別進学類型1年の英語47.8%、ビジネスマネジメント科2年の国語33.3%、数学37.5%が目立った。事後指導や授業等への反映が課題となる。
		1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】	1年：73.6% 2年：60.6% 3年：52.3% 全体：66.8%	C	昨年度の全体の割合は65.9%。特に1年生において家庭学習の習慣が身についている。一方、アンケート実施時期の影響によるものか、3年生の割合が著しく低くなっている。
		「授業がわかる」回答生徒割合80%以上【共】	85.6%	A	昨年度は88.4%。なお、「積極的にグループ学習に取り組んでいる」と回答した生徒は91.5%であったが、「授業を受けた後に力がついたと実感している」生徒は78.2%であった。より一層授業力の向上を図る必要がある。
	学科、類型ごとの特色化	受検実績が1人1回以上【普】	1・2年生は英検IBAを全員受検した	A	外国語科や商業科の取り組みにより、意欲的に検定取得に向けて取り組む生徒が多い。商業科教員による、検定の個別受験者への対応についても手厚く実施できた。
		卒業時検定取得2種目以上【商】 放課後等検定補習実施【商】	今年度も実施した		
		朝読書の時間設定【共】 一人年3冊以上の読書【共】 図書館を利用した授業や講座を校内全体で月3回以上実施【共】	朝5分間の時間を設定した 64.8% 国語科、英語科、地歴・公民科、芸術科が利用した。 月によって回数変動した	B	昨年度、年3冊以上の読書をしたと回答した生徒は37.2%であり、今年度は大幅に増加した。要因としては、図書館の整備が済んだことや朝読書の指導の効果によるものかと思われる。 また、各教科での活用や、放課後の自習スペースとしての開放を始めたことで、図書館の使用頻度も高まった。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア		1月進研模試（国数英）で平均GTZがB1以上（1・2年生）、共通テストと2年2月マーク模試の得点比が2割増の生徒が80%以上（3年生）【普・P／特進】 「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・P／特進】	1年生32.4% 2年生45.8% 3年生の平均上昇点は1000点中139点。 97.8%	A	1月時点の各種模擬試験の結果によると、3学年ともに昨年度並みの学力を身につけていることがわかる。 昨年度は91.1%。今年度は昨年以上に丁寧な指導や意識づけを行ったことで、割合が高まったと考えられる。
		「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上【普・C／総キャリ／進学】 「教師が生徒の進路に応じた声掛けをしてくれる」回答生徒割合80%以上 「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・C／総キャリ／進学】	86.3% 87.2% 83.4%	B	それぞれの項目で80%以上の回答が得られたが、「授業や行事を通して学習意欲が上がった」生徒のみ、目標とする90%以上を達成できなかった。 生徒の進路に対する意識は高く、教員も面談等の機会を設けることで生徒の実態に合わせた指導を行うことができていると考えられる。学習意欲がやや低くなっている一因は、特別進学類型に比べて進学類型独自の進路行事が少ないことの影響があるのではないかと考えられる。
		「アートコース（類型）に設置された専門の授業により、アートの専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【普・アート】 全国レベルの大会やコンクール出場2件以上【普・アート】	95.7% 1件	A	専門スキルを持つ教員の指導や、デジタル機器を用いた作品制作などの機会により、高い専門性を身につけることができた。 全国高等学校漫画選手権大会まんが甲子園に静岡県代表として出場し、高知県高等学校文化連盟会長賞及びやなせたかし賞を受賞した。また、高校生国際美術展の奨励賞、愛鳥週間ポスターコンクールの静岡県知事賞、ふじのくに健康づくりポスターコンクールの最優秀賞、静岡県高等学校美術・工芸展の優秀賞などを受賞した。
		「スポーツ健康類型に設置された専門の授業により、スポーツ健康に関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【普・ス健】 来年度新たに開講する科目のシラバス、指導案の作成、授業内容の検討【普・ス健】	100% 作成済	A	今年度から開講した類型であるが、保健体育科の教員による工夫により非常に高い満足度が得られている。スポーツ医学検定3級を11人が受検し、10人が合格した。次年度は完成年度となるが、外部連携している団体との振り返りも行いながら、より充実した授業内容に高めていきたい。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア		「商業科目の授業により、ビジネスに関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【商】 全国レベルの大会出場2件以上【商】	97.7% 達成した	A	商業科目の授業で得られる満足度が非常に高いことが分かる。 また、ビジネスプラングランプリ、ビジネスアイデア甲子園等に出場し、ビジネスプラングランプリではファイナリスト、ビジネスアイデア甲子園では学校賞を2年連続受賞できた。それぞれ連続受賞は初である。
イ	心身ともに健康的で他者を思いやる生活	「服装を正し、礼儀やマナーをわきまえて行動している」回答生徒割合90%以上【共】 「地域や近所の人と会うとあいさつをしている」回答生徒割合80%以上【共】 昇降口指導の実施【共】	98.6% 89.4% 毎日7:50～8:30まで、各学年1名の教員で実施。それ以前の時間は複数の有志教員が実施	A	昨年度は96.8%。生徒の意識はさらに高まっているが、一部でルールを逸脱する生徒もいる。継続的な声掛けや指導を継続する必要がある。 昨年度は85.9%。意識をもって取り組んでいる様子がうかがえる。 昨年度から継続して、挨拶運動や服装点検を行った。生徒の挨拶の声も元気になってきた。複数の教員が生徒を見取ることで、生徒の心身の状態を把握し、変化に気づく機会が広がった。
	特別支援学校との交流等の積極的展開	保健だより年12回発行【共】 薬物講座等年2回実施【共】 AED講習等への生徒参加【共】 朝食摂取率90%以上【共】 年間欠席日数10日以内、遅刻早退については年間合計日数10回以内の生徒の割合90%以上【共】	毎月発行した 薬学講座1回、思春期講座3回実施 実施した 95.2% 1学期98.2% 2学期97.5%	A	紙での発行に加え、メールを利用して家庭にも3回周知した。今年度も計画どおり実施できた。アンケート等も活用し、講座の内容に反映させた。 昨年度は生徒の参加はなかったが、今年度は1年生の保健体育の授業で全員が、2年生のスポーツ健康類型の生徒が、一次救命処置を学んだ。 昨年度は94.4%であり、昨年度並みであった。 目標は達成した。昨年度よりも学校全体の欠席率は減少しており、長期欠席傾向の生徒も減少している。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ		学校生活サポートシート等を活用した「生徒情報交換会」学期1回【共】 巡回通級等において、配慮を要する生徒に対してSST、アサーショントレーニング月1回【共】 「自分を理解し大切にしてくれる友がいる」回答生徒割合90%以上【共】 「目標を持ち、充実した学校生活を送っている」回答生徒割合85%以上【共】 「学校に自分の居場所があると感じる」回答生徒割合80%以上【共】 1分間カウンセリングの実施（1、2年）【共】	生徒情報交換会を学期に1回実施した 巡回通級による指導を15回実施した 94.6% 85.4% 90.1% 1、2年生ともに実施した	A	学校生活サポートシートに加えて生徒情報シートを活用し、配慮を要する生徒の情報を共有し、個に応じた指導を行う一助とした。 対象生徒は、自分の特性を知り、場面に応じた対処方法を学ぶことができた。 昨年度は94.4%。なお、保健室の利用者はやや減少した。 昨年度は88.5%。微減となったが目標をわずかに上回った。 昨年度は90.6%。大多数の生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。 1年生は5月に、2年生は11月に実施。継続面談につながった生徒もあり、相談体制を生徒に周知することができた。
		「共生・共育を通じて多様な価値観を受容する大切さがわかったと感じる」回答生徒割合80%以上【共】	88.0%	A	昨年度は86.4%。10月に2年生の各学級で特別支援学校との交流行事を行い、昨年度よりも交流の機会を増やすことができた。
ウ	キャリア教育の展開による生徒個々の進路実現	進学か就職かを決めている割合80%以上（1年）【共】	84.5%	A	昨年度は82.2%。今年度も総合的な探究の時間やLHRを通じて進路意識の涵養に努めた。
		興味のある学問・職種がある生徒の割合80%以上（1年）【共】	84.9%		昨年度は87.0%。定期的に進路行事を行うことで、生徒の興味を高めることができた。
		進学の場合の校種や内容、就職の場合の職種を決めている割合80%以上（2年）【共】	76.3%		昨年度は78.5%。進路について最も悩む学年であり、数値は低くなる傾向があるが、継続的な指導を実施した。
		第一志望が確立されている割合90%以上（3年）【共】	97.2%		昨年度は97.0%。6月提出の第一志望届の提出に向けて、2年次から継続的な指導を行った結果と捉えることができる。
		教職員による個人面談年間3回以上【共】	52.5%	B	長期休み明けを中心に、生活面や進路面に関する面談を行ったが、学級によって面談の回数に差がみられた。
		日本学生支援機構奨学金の情報提供100%【共】	100%	A	定期的に3年生の各学級に周知した。
		企業及び学校訪問後に報告書を作成し、進路課、各学年部主任、3年担任との情報共有【共】	共有できた	A	報告書をはじめ、各種検討会では多様な学校情報について情報共有を図ることができた。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ		検定等資格を活用した大学の学校推薦型選抜等による受験者数増加【商】	昨年度並み	A	担任・学年・進路課等の協力により、国公立大学の合格実績も出すことができた。
		職業体験参加者のうち、「職業体験は将来の生き方を考える上で有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】	90.5%	A	インターンシップや一日体験ナース等の職業体験に参加した生徒の大多数が有意義な体験を得ることができ、将来の進路選択にいかすことができている。
		土曜講習や長期休業中の進学講座の「受講により学力の伸びを実感したと感じる」回答生徒割合70%以上【普】	80.6%	A	昨年度は72.7%。生徒の多様な進路希望に対応できていると考えるが、一方で教員の働き方改革も意識しながら、継続するかどうかを検討していきたい。
エ	探究的な学びの展開	「総合的な探究の時間の取組で情報収集・分析力が身についた」回答生徒割合80%以上	88.3%	A	1つ目と2つ目の項目は昨年度は目標に掲げていなかったが、3つ目の項目については昨年度の77.4%を上回ることができた。今年度は、特に1年生において、身につけさせたい力を意識した計画を立案し、見通しをもった授業を実施した。また、地域連携にも意欲的に取り組むことで、生徒の力が着実に身についたとみられる。2年生においても、昨年度に身につけた力を、より一層発展させる取り組みができた。次年度は、校内委員会の拡充を図ることで、担当教員の負担軽減にもつなげたい。
		「総合的な探究の時間の取組で課題発見力、解決力が身についた」回答生徒割合80%以上	87.2%		
		「総合的な探究の時間の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えるようになった」回答生徒割合80%以上【共】	82.9%		
	地域・保護者に愛され、信頼される学校づくり	県立大学出張講義5回【商】	未実施	A	先方の担当教授が退官したため、後任に上手く繋ぐことができなかったことが反省である。 課題研究「観光ビジネス」と「地域戦略論」を中心に参加した。 「簿記探究」では、今年度新たに日経Stockリーグへ参加した。 2月21日に伊東市役所で発表会を実施。3年生課題研究「観光ビジネス」と「地域戦略論」の受講生徒が参加した。 今年度も参加し、2年連続でファイナリストに選出された。 1月15日の課題研究発表会で成果発表を行った。発表会には、伊東市議会の議員も参観した。
		外郭団体主催事業に参加【商】	参加した		
		伊東市活性化プラン発表【商】	発表した		
		ビジネスプラングランプリに参加【商】	参加	A	
		「課題研究」全講座で探究的内容を実施する【商】	実施		
		HPや公式X、インスタグラム随時更新【共】	随時更新ができた	A	学校行事ごとに最低1回は更新できた。Xのフォロワー数は500人、Instagramのフォロワー数は1000人を突破した。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ		中学生1日体験入学に「参加してよかった」回答参加者割合 80%以上【共】	98%	A	「参加してよかった」と回答した中学生は98%。次年度も工夫を凝らした体験入学を実施したい。
		保護者の緊急メール加入率 100%【共】	100%	A	生徒・保護者合わせて加入率100%を達成した。ただし、昨年度の加入者名が残っていることがあったため、年度初めに改めて登録しなおしてもらう必要がある。
オ	特別活動、部活動の活性化	リーダー研修会の実施【共】	10月に実施した	A	本校で1泊2日の日程で実施した。活発な討論が行われ、そこで出た意見を基に、生徒会執行部が主体的に行動する契機にできた。
		「各行事は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	92.5%	A	生徒会執行部の生徒を中心に、生徒自身が主体となって各行事の運営を行うことができた。多くの生徒が積極的に行事に参加しようとする姿勢がみられたため、満足度が高かったとみられる。
		「修学旅行は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	96.6%	A	昨年度は97.8%。訪問先や日程は昨年度と同じ。なお、今年度は生徒の参加率は100%であった。
		「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合75%以上【共】 「部活動下校午後7時」(原則)の徹底【共】	77.2% 概ね規定どおりの行動ができた	A	昨年度は78.3%。任意加入となる2年次以降も部活動を継続する生徒が多く、各学年の成績上位者は全員が部活動加入者であった。なお、本校の部活動ガイドラインを遵守した活動が概ねできた。
		1部活動1貢献活動【共】	達成した	A	朝の挨拶運動や校内外の美化活動を中心に、各部活動が積極的に取り組んだ。
カ	「育てたい力」伸長の検証	学びみらいPASSによる測定を行う。(1年)【共】	実施した	A	測定を実施し、個人内評価に向けたループリックの作成を行った。
キ	教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善	校内研修年5回以上実施【共】 授業見学週間年2回設定【共】	5回実施した 実施した	A	授業力向上と観点別学習評価についての研修、危機管理についての研修等、計5回実施した。教員も活発に討論し、全教員が意欲的かつ積極的に参加した。 教科の違いを越えて生徒評価について考える機会とするため、授業見学週間を2回設定した。また、参観者からの意見・評価を基にした研修も実施し、授業改善につながった。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
キ		「ＩＣＴや一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合80%以上【共】	85.7%	B	昨年度は83.6%。ＩＣＴ機器の扱いが得意な教員以外も活用する場面が広がった。 昨年度は85.7%。今年度も目標に到達しなかったが、取り組みができていないと回答した教員であっても、まったく対応していないのではなく、「日常的」に取り組むことはできていないという意味合いが強い。
		「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合95%以上【共】	82.5%		
		「一人一台端末の活用が有意義だった」回答1、2年生生徒割合70%以上【共】	91.9%		
		「信頼できる先生がいる」回答生徒割合80%以上【共】 年次別研修該当者と希望者によるチーム研修年2回実施【共】	81.4% 実施した	A	昨年度は82.8%。さらに信頼度が高まるよう、丁寧な言葉遣いや声掛けをしていきたい。 8つのグラデュエーションポリシーに関する生徒や学校の特性および課題を共有した。
		コンプライアンス研修を含めた職員研修を月1回以上実施【共】	実施した	A	ほぼ毎回の職員会議で実施した。 また、朝の打ち合わせを利用して不定期に実施した。平均すると毎月1～2回の研修を実施した。
		教職員の夏季休暇完全取得100%【共】 「平均して週1回以上は勤務時間終了後1時間以内に退勤できた」回答教職員割合100%【共】 「平日の完全退勤時刻20時を原則的に守ることができた」回答教職員割合100%【共】	92.9% 44.2% 75.6%	C	取得しなかった常勤職員はいないが、完全取得できない者が数名いた。次年度も呼びかけを行う。 昨年度は51.1%。部活動顧問や学級担任を中心に業務が多いため、困難な目標ではあるが、随時声掛けを行っていく。 時間外在校等時間の縮減について職員会議で取り上げ、その意義を説明し、自己管理の意識をもってもらうよう依頼した。
		「職員室をはじめ新高校が働きやすい環になるよう留意した」回答教職員割合90%【共】	100%	A	昨年度は87.8%。統合初年度の昨年度に比べて、教職員の日常的な会話も増えてきたことが一因であると考えている。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ク	安心・安全で快適な教育環境の整備	危機管理マニュアルの浸透【共】	昨年度からの刷新を図った	A	マニュアルを見直し、職員室や事務室に配布するとともに、デジタルデータでも閲覧できる環境を整えた。
		緊急避難経路の確認【共】	確認済み		5月の避難訓練で、全校生徒・教職員が避難経路を確認した。
		定期的な施設設備の安全点検実施【共】	実施した		AEDの動作確認と合わせて、毎月1回実施した。
		AED講習の実施【共】	実施した		8月末に実施。AED研修とシミュレーション研修を行い、延べ46名の職員が参加した。
	ク	校内、学校周辺の危険箇所の確認学期1回【共】			予定を立てて実施することはなかったが、学期に1回の確認を行った。大きな危険箇所を発見することはなかった。
		防災教育連絡会議への参加【共】	未参加	C	年度内に1回実施ができるように書類作成を行い、関係各所と調整をしたが、未実施である。
		地域防災訓練参加率90%以上【共】	生徒4.5% 教職員21.6%		9月の総合防災訓練が多く地域で実施されなかった。12月の地域防災訓練の参加率は、生徒4.5%、教職員21.6%であり、次年度以降の呼びかけを徹底していく。
ケ	確実に効果的な学校事務執行	全校防災訓練の実施【共】	実施した	A	5月に全校で避難訓練を実施。また、10・11月に2年生対象に消火訓練を実施した。
		消火訓練等、教職員向け実践的防災訓練の実施【共】	実施した		教職員向けにI-DEAを実施し、危機管理マニュアルの検証を行った。
		一足制である校舎の美化意識を高め、清掃活動を徹底する。【共】	達成した	A	学期に1回大掃除を行うとともに、行事などの際には美化委員による活動も行った。また、ゴミ処理に関する掲示物を各学級に掲示し、不適切なゴミ処理事案については、教職員全体で共有したあとに生徒にも周知した。生徒の美化意識も高く、次年度も取組を継続していきたい。
		「校舎をきれいに、施設や備品を大事に使うように心がけている」回答生徒割合90%以上【共】	98.9%		
		ゴミ分別の推進【共】	生徒・教職員に周知した		
		開校2年目で初年度に引き続き煩雑な業務が想定されるが、情報共有により、生徒、教職員の学校への満足度を高める。【共】	計画的で有効な事務処理を実施できた	A	昨年度よりも、事務室と教職員との連携が進んだことで、次年度以降も見通した計画や対応を行う余裕ができた。